

グライドメーター及びグライドメーターを用いた グライドメーターシステム

特許第6078847号
 特許権者：防災科学技術研究所
 発明者：阿部 修

これまで予測がある程度可能な全層雪崩に対しては、斜面の積雪に現れるクラックの広がりなどを人の目で判断していました。しかし、積雪地域では限界集落が増えて、人の目が行き届かなくなってきました。

→ 安価なグライドメーターで斜面の動きをモニターできれば、気象データと同様に離れた場所にある道路情報センターから発生危険度を判断することが可能となる。

発明のポイント

全層雪崩に関する研究の蓄積がある



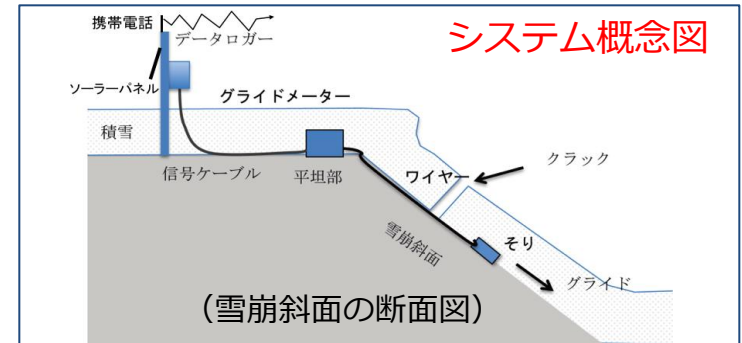
全層雪崩の発生はある程度予測が可能



斜面積雪の移動（グライド）を安価に検知する装置を考案



移動速度から発生危険度を判断するシステムを構築



効果

- ・特に監視の目が行き届かない地方道に設置することにより、
- ・積雪地域の住民の生活と安全が確保され、
- ・積雪地域を含めた国土の均衡ある保全に貢献する。